

号外

# 書字文化

号外（平成 28 年 11 月）

第 5 回総合大会作品展示交流会 i n 浅草を開催

## 表装、記念アルバム化で華やかに展示 字形・運び・構成…加藤審査委員長が激励講 評

秋晴れのさわやかな休日となった文化の日の 11 月 3 日、東京都台東区の同区立浅草公会堂で、第 5 回全国書写書道総合大会の出品作品展示交流会が開かれました。書の学びにいそしむ人同士の交流と作品の展示・鑑賞に重きを置いており、毛筆・硬筆作品約 200 点を表装あるいは記念アルバムの形で展示。出品者だけでなく家族ぐるみでやってくる姿が目立ちました。

午後 2 時からは居合わせた出品者 22 人による記念の集合写真撮影が行われました。加藤東陽中央審査委員長は約 100 人の保護者らを前に「審査は厳正に行われました。字の形、筆の運び、構成を考えながらますます努力しましょう」と激励のあいさつ。辻真知子副委員長、柴田五郎審査委員も「展覧会をみて審査が正しかったことを確認しました。」など皆に話しかけました。



第5回作品展示交流会 i n 浅草

## 顕彰は家族の拍手から 岩手、新潟、高知…遠方からも参加

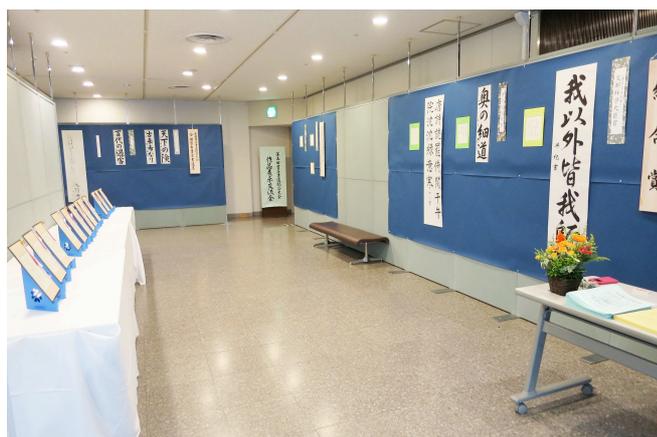


観音様のすぐ近くにある浅草公会堂は、歌舞伎も上演される1,200席の大ホールも備えた浅草のランドマークでもあります。

展示交流会に関東近県はもちろん、岩手、新潟県など遠方からも参加。大半は家族ずれで訪れました。高知県安芸郡田野町からは2組計7人が上京し

ました。祖母、両親のチームです。同町は土佐湾に面した田園地帯。全国大会で気を吐いた2人は同じ書塾の先輩、後輩です。書文協では子どもたちの顕彰の充実に力を入れることにしており、学校だけでなく地元教委にも顕彰依頼することを検討していますが、田野町教育委員会にも顕彰規定があればお願いする方針です。

総合大会は3つのコンクールがあります。第5回は全国学生書写書道展（1,483点）全国硬筆コンクール（4,151点）、ひらがな・かきかたコンクール（8,391点）合計14,025点の応募がありました。全体の約1%の特別賞が飾られた展示会第1会場には3コンクールそれぞれの文部科学大臣賞ほか計約95点、第2会場には



第一会場



書文協専修学院生の応募作品計約130点でした。書文協では、将来的にこの展示会を東京以外の拠点都市で開催する方針です。

← 第二会場